

**【概要】** 新型コロナウイルス感染症について、府内の医療機関や福祉施設等で実際に発生したクラスターの発生事例をもとに、これら施設等の管理者・職員がクラスターの発生や拡大を防ぐために注意すべき事項や対応策をケーススタディ形式にまとめ、施設等の感染対策の再確認・自己点検への活用を促す。

○施設内での感染やその拡大を防ぐための注意事項

- (例) ・施設利用者に発熱などの症状などがあってもかかわらず、受診や検査が遅れたことで診断が遅れ、その間に感染が広がったと考えられる事例
- ・施設職員に発熱などの症状などがあってもかかわらず、受診や検査が遅れたことで診断が遅れ、その間に感染が広がったと考えられる事例
- ・施設利用者のケアの際に職員と身体接触があるにもかかわらず、標準予防策と呼ばれる必要な感染対策が十分行われていなかった事例

○職員等が感染しないようにするための注意事項

- (例) ・施設においてクラスターが発生した際に、近隣医療機関の専門家の助言を得て P P E の着用等感染対策を徹底したことにより、感染拡大を阻止できた事例
- ・職員が「唾液が飛び交う宴会・飲み会」に参加して感染してしまった事例

**【今後の予定】** 1 1 月中に作成。速やかに府ホームページで公開するほか、研修会等での活用や配布を行う。

福祉施設・医療機関等職員の  
自己点検のための  
新型コロナウイルス感染症  
集団感染ケーススタディ  
(一部抜粋 案)

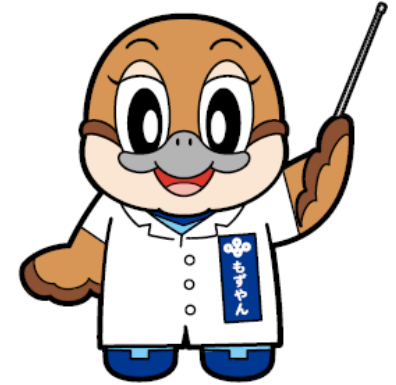
大阪府健康医療部感染症対策課



# はじめに

- ・ 新型コロナウイルス感染症に関して、これまでにわかってきた知見や、福祉施設や医療機関で発生したクラスター事例等の経験から得られた教訓をもとに、今後福祉施設や医療機関等で注意すべき事項をまとめることとしました。
- ・ 情報をまとめるに当たっては、事例を具体的な形で示すことにより、関係機関や関係者がクラスター発生予防に取り組むために、各自が何に注意すべきか十分な理解を深めることができるよう、府内で発生した事例を参考にケーススタディを作成しました。
  - ＊ この資料で示す事例は、令和2年11月現在の知見やこれまでの経験から得られた教訓に基づき作成した模擬事例です。

# ケーススタディ



- 模擬事例 1 初期対応が不十分だったと考えられる事例
- 模擬事例 2 職員の受診遅れにより感染拡大した事例
- 模擬事例 3 施設内へのウイルスの侵入が完全には防ぎ切れないことにどう対処すればいいか
- 模擬事例 4 関係機関の協力を得て感染対策を強化して施設クラスターを収束させた事例
- 模擬事例 5 ウイルス持ち込み対策が不十分と考えられる事例
- 模擬事例 6 業務外での感染対策が不十分な可能性がある事例

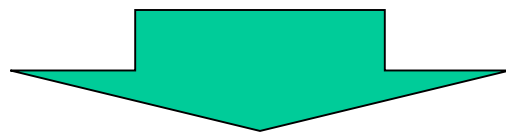
# 模擬事例 2

職員の受診遅れにより感染拡大した事例



# 職員の発熱を端緒にクラスターが判明

- ・障がい者施設職員 B 氏（30代）が発熱したため、休暇を取り自宅待機としたが、翌日に解熱したためすぐ業務に復帰した。
- ・数日後から同じフロアで発熱症状を呈する利用者と職員が多発。
- ・念のため B 氏を含む発熱した職員を受診させ、受診先の医師の判断でPCR検査を実施したところ陽性が判明。



保健所の指示により陽性患者との濃厚接触者を含む同じフロアの利用者と職員全員にPCR検査を実施したところ、利用者と職員の両方から多数の陽性者が判明し、クラスター発生が判明した。

# まさか自分がコロナにかかるとは思わなかった



○発熱したため休暇を取り自宅待機とした

→発熱や咳などの症状がある場合、まずは仕事を休んで  
自宅で療養をする

×翌日に解熱したためすぐ業務に復帰した。

→発熱が数日持続するといった典型的な経過ではなく、  
軽症ですぐに解熱したりごく軽い症状のまま経過する  
患者も多い。発熱などの報告を受けたら、風邪症状が  
あれば「コロナかもしれない」と考え検査につなぐため  
受診を勧奨する

# 感染拡大防止のポイント①

- 病院や入所施設などクラスター発生リスクが高い施設では、患者や利用者だけではなく、職員自身も体調の変化に常に注意を払う
- 特に若い人の場合は、軽症ですぐに回復することも多く、典型的な経過をたどらないことが多いことに注意する  
(典型的ではない症状の例)
  - 発熱したが1日で平熱に戻った
  - のどが痛いだけで他に症状はない
  - 頭痛があるが他に症状はない
  - 咳や倦怠感が続くものの発熱はない
- \* 新型コロナウイルス感染症以外の重篤な疾患が隠れている可能性もありますので、症状が気になる場合は医師に相談しましょう



## 感染拡大防止のポイント②

- 症状がある場合は、感染による発症を常に想定して無理に出勤せず、まずは仕事を休み自宅待機とする
- 新型コロナの流行期においては、早めの受診を心がけ、受診する際は、施設や病院の職員であることを診察医師に説明して検査の要否を判断してもらう（検査は医師の判断により実施）
- 検査で一度陰性が確認された人もその後陽性化する恐れがあることに注意する
- 無症状であっても、実際には感染が隠れていて、周囲に感染させる可能性があることを常に考慮して行動する